ため池災害について

ため池とは

ため池は、農業用水の確保を目的として古くより築造されてきました。現在ではその豊富な貯水量と自然環境によって、利水はもとより動植物の生息・生育環境や洪水調整機能などとして貴重な役割を担っています。

河内長野市では、ため池が決壊した場合に想定される浸水区域や水深などをとりまとめた**「ため池ハザードマップ」**を作成しています。

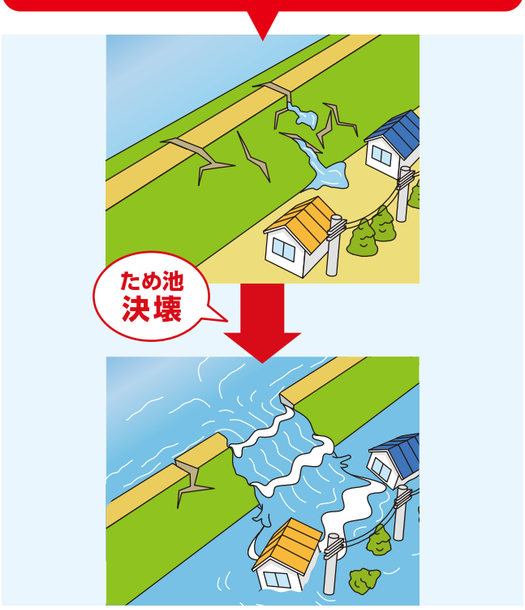
詳しくは市のホームページをご確認ください。

河内長野市　ため池ハザードマップ　検索

ため池の決壊要因

ため池の堤防は日頃から安全管理を行っていますが、ため池の耐用能力を超える大雨や地震の発生によって損傷を受ける場合があります。大雨のときや地震のあとは、ため池の決壊に注意が必要です。

大雨のときや地震のあとは注意しましょう。



ほかにも堤防の沈下、斜面すべり、越流による破壊等が想定されます。

ため池が持つ役割や災害時の活用

ため池は、私たちの生活にたくさんの恵みを与えてくれています。共存することで、いつまでもその恩恵を受けられますし、適正な管理につながります。

●農業用水の水源

水の確保が難しい地域では、古くからため池を活用し、農業用水として利用しています。貴重な水源です。

農業用水の水源（他所事例）

●水辺空間の形成

市街化が進むと緑や水辺空間が減ってしまいますが、ため池周辺は緑もあり、水に親しむことのできる憩いの空間となります。生き物の生息場所にもなります。

水辺空間の形成（他所事例）

●災害時の活用

洪水調節機能があり、大雨時はいったんため池に貯水されるので、水を安全に流下させることができます。

このほかにも、ため池管理者と相談の上、火災時の防火用水等に活用されている事例もあります。

サイホンを使った簡易緊急放流研修の様子（寺ヶ池）

寺ヶ池全景

地域防災活動

自助・共助・公助とは

災害に対する予防・応急復旧、復旧・復興には、住民の皆様と行政機関等がそれぞれ役割を果たし、協力・連携して対策にあたることが重要です。特に被害を最小限に抑えるためには「自助・共助・公助」の効率的な組み合わせが重要です。

自分の身は自分で守る

飲料水、食料等の備蓄、防災知識、技術の修得、危険回避のための自主防災など、普段からの災害に対する準備をします。

自分たちのまちは自分たちで守る

自主防災組織の結成、活動の促進、訓練への参加、住民同士が互いに協力し、助け合いましょう。

公的な援助

行政機関等（国、大阪府、河内長野市、消防、警察、自衛隊など）の活動です。各機関とも災害の発生からできるだけ早く応急対策活動にあたれるように備えています。

自助・共助・公助の連携が必要です

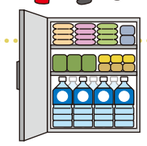
自主防災組織に参加しよう

自主防災組織とは

地域住民が連携し、自主的に防災活動を行う組織のことをいいます。大地震のような大規模な災害時に備え、地域住民が連携して地域の被害を最小限に抑えることが自主防災組織の役割です。

平常時の活動

❶防災知識の普及啓発
❷防災訓練や地域の防災安全点検の実施
❸防災資機材の備蓄



災害時の活動

❶地域住民への避難の呼びかけ・誘導
❷負傷者の救出・救護
❸初期消火活動　❹避難所の運営

避難行動要支援者の避難誘導ポイント

避難行動要支援者は避難所までの移動に時間がかかるので、早めに避難を始めましょう。

高齢者・傷病者

あらかじめ支援者を決め、複数人で対応し、車いすや担架を使うほか緊急時はおぶって避難する。

目の不自由な人

まずは声をかけ、誘導するときは、腕を貸してゆっくりと歩く。できるだけ状況を言葉にして伝える。

耳の不自由な人

お互いに顔が向き合う形で、大きく口を動かし話しかける。伝わりにくい場合は身ぶり、筆談により伝える。

車いす利用者

階段では2人以上で援助し、上りは前向き、下りは後ろ向きに移動する。ひとりの時はおぶって避難する。

知的障がいや精神障がいのある人

状況の理解が難しい場合やパニックなどを起こしている場合は、声かけをして落ち着かせて、手を引くなどして誘導する。